

中 学 校

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	3
1	基礎研究	3
2	調査研究	5
3	授業研究	7
(1)	実践事例①	7
(2)	実践事例②	13
VI	研究の成果と課題	19
VII	今後に向けて	20

研究主題

人間としての生き方についての自覚を深め、未来への夢や希望につながる道徳の時間
～自己や他者との関わりを豊かにする指導を通して～

I 主題設定の理由

昨今、いじめ問題が深刻化し、生徒の生命を尊重する心や自尊感情の乏しさ、規範意識の低下、人間関係を築く力や社会性の育成が不十分といった数多くの課題が指摘されている。こうした課題の要因として、核家族化や少子化といった生徒を取り巻く環境の変化がある。さらに、他者や社会との関わりが弱くなっており、人間関係が希薄化していることが挙げられている。

学校生活においても、クラスや学年、部活動等において、周りの人と上手に付き合うことができず、自分の気持ちを素直に伝えたり、他者の気持ちに共感し認め合ったりすることが苦手で、集団の中でよりよく関わり合うことができない生徒が多く見られる。相手の立場や思いを尊重し、自分との共通点や相違点を感じながら、互いのよさを認め合える人間関係が醸成されてこそ、よりよく生きる力が育まれると考える。

また、平成25年4月に東京都教育委員会より示された東京都教育ビジョン（第3次）によると、中学生の3人に1人は将来の夢や希望を持っていないという実態が明らかになっている。

このような社会状況において、学校の教育活動全体を通じて豊かな心を育む「道徳教育」の重要性は一層高まっており、その要となる「道徳の時間」のさらなる充実が強く求められている。

しかし、平成25年2月の教育再生実行会議の第一次提言では、道徳教育の重要性が強く示されている一方で、「現在行われている道徳教育は、指導内容や指導方法に関し、学校や教員によって充実度に差があり、所期の目的が十分に果たされていない状況にある。」という課題が挙げられている。

そこで、生徒が他の人の多様な感じ方・考え方に触れ、自分と関わりで道徳的価値を捉えることができるように、授業者のねらいとする道徳的価値についての分析や道徳の時間における基本発問や中心発問、学習活動の意図をはっきりとさせる必要があると考える。

このような現状と課題を踏まえ、他者と豊かに関わり合うことを通して、自己をより深く見つめることにより、人間としての生き方について自覚を深め、未来につながるよりよい生き方を実現していこうとする思いを培う道徳の時間を目指すために、本研究主題を設定した。

「人間としての生き方についての自覚を深める」とは、道徳的価値を自分との関わりでしっかりと考え、道徳的価値の自覚を深めることである。このことが人間としてよりよく生きていく力になると考えた。小学校における道徳の時間において、児童は、道徳的価値の自覚を深める過程で、自己の生き方についての考えも深めてきている。中学校における道徳の時間においては、このことをさらに深め、道徳的価値に裏付けされた人間としての生き方の自覚を深める指導を行うことが重要であると考えた。

また、「未来への夢や希望」とは、自己理解を深めることで、現在の自己の生活の状況及び将来の生き方に関する考えを明確に捉え、自己の人間としてのよりよい生き方を実現していこうとする思いや願いのことを意味する。

このような「人間としてのよりよい生き方」についての理解を深め、「未来への夢や希望」につなげていくためには、道徳の時間における自己や他者との「関わり」が必要不可欠である。他の人と共感し合ったり相違点を話し合ったりするなど、自己や他者との豊かな関わりがあるからこそ、自己の人間としてのよりよい生き方の自覚を深め、未来への夢や希望につなげるこ

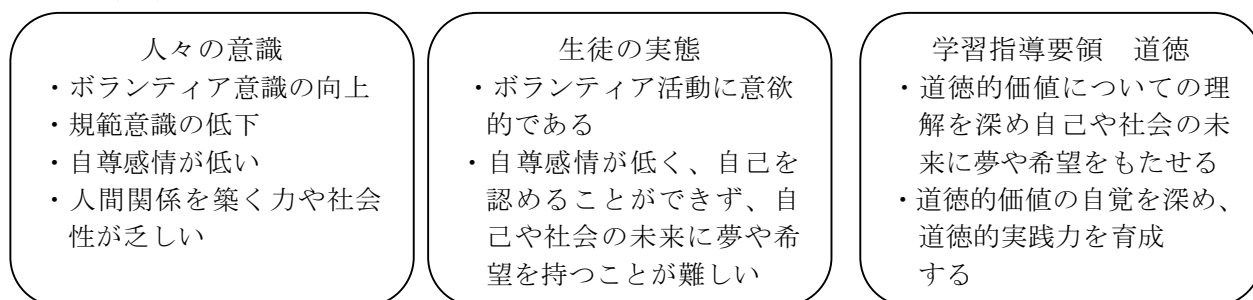
とができるのではないかと考える。

また、ねらいとする道徳的価値において、現在の生徒の道徳的価値の理解がどのような状況にあるのかを事前調査することも大切である。把握した実態を踏まえた上で、自己や他者との関わりを豊かにして、より効果的な指導につなげることが可能となる。

以上のことを踏まえ、研究主題を「人間としての生き方についての自覚を深め、未来への希望につながる道徳の時間～自己や他者との関わりを豊かにする指導を通して～」として、研究を進めることとした。

Ⅱ 研究の視点

研究構想図



研究主題		
人間としての生き方についての自覚を深め、未来への夢や希望につながる道徳の時間 ～自己や他者との関わりを豊かにする指導を通して～		
目指す生徒像		
社会において人間としてよりよく自分らしく生きようとする生徒		
研究仮説		
自己や他者との関わりを意識した発問構成や学習活動を工夫することによって、生徒の人間としてのよりよい生き方についての自覚を深め、自分らしく生きようとする心を育てることができるだろう。		
基礎研究	調査研究（生徒対象）	
○未来への夢や希望をどう捉えたか ○関わりをどう捉えたか ○実態調査の手法についての情報収集	○自分の将来の夢や希望についての考えに関する意識調査 ○自己や他者との関わりに関する実態調査	
研究の柱		
1 ねらいとする道徳的価値に関する実態把握	2 発問構成の工夫	3 学習活動の工夫
授業研究		
学 年	主題名 内容項目	資料名
1	きまりの意義 4－（1）	人に迷惑をかけなければいいのか？
2	働くことの意味 4－（5）	小さな工場の大きな仕事

Ⅲ 研究の仮説

自己や他者との関わりを意識した発問構成や学習活動を工夫することによって、生徒の人間としてのよりよい生き方についての自覚を深め、自分らしく生きようとする心を育てることができるだろう。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究	2 調査研究	3 授業研究
○自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深めることについて ○未来への夢や希望に関して ※東京都教育研究員小学校道徳部会と合同研究	○夢や希望に関する意識の実態調査（生徒対象） ○自己や他者との関わりに関する実態調査（生徒対象）	○関わりを豊かにする指導の工夫（2校で2回実施） 1 ねらいとする価値に関する実態調査 2 発問構成の工夫 3 学習活動の工夫 ※東京都教育研究員小学校道徳部会と合同研究

Ⅴ 研究内容

1 基礎研究

人間としての生き方についての自覚を深め、未来への夢や希望に向かって自分らしく生きようとする心を育てるために、自己と他者との関わりがどのように影響するのか、学習指導要領・参考文献・先行研究を基に考察し、研究員間で共有化を図った。

【研究員間で共有した事項】

○人間としての生き方についての自覚を深める

中学校学習指導要領解説道徳編には道徳の時間の目標の一つとして「道徳的価値の自覚及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める」ことを挙げている。小学校段階では、道徳的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めてきている。このことを踏まえ、中学校段階では、これらの道徳的価値の自覚を人間としての生き方や在り方として捉え、よりよく自分らしく生きていこうとすることが大切である。

「人間としての生き方についての自覚を深める」ためには、道徳的価値を自分との関わりで考えるということが大切である。より深く道徳的価値を自覚させていくために、それぞれの発問の意図を明確にしていく。教師が、道徳的価値の自覚を深める学習過程を大切にする中で、生徒がこれまでの自分や現在の自分を深く見つめ、これからの自分の人間としての生き方の自覚を深めるとともに、未来への夢や希望、つまり自分らしく生きていこうとする思いや願いを深められるようにしたい。

（1）道徳的価値についての理解

ア 道徳的価値は大切であること。

人間としてよりよく生きる上で、大切なことを大切なことであると理解すること。生徒が道徳的価値の大切さについて十分に理解できている場合においても、道徳の時間を通して、より実感をもってそれらの大切さを理解させることが求められる。

イ 道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと。

人間としてよりよく生きる上で大切なことであっても、人間は常にそれらを行動として実現できているとは限らない。こうした人間の弱さについて理解させる。

ウ 道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること。

道徳的価値を具体的な行為として実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方・考え方は一つではなく、多様であることを理解させる。

(2) 自分との関わりで道徳的価値を捉える。併せて自己理解を深めていくようにするということ。

上述の道徳的価値の理解を図る際に重要なこととして、一人一人の生徒が自分との関わりで道徳的価値を捉えることが挙げられる。生徒が道徳的価値を他人事ではなく自分のこととして捉え、これまでの自分の経験を振り返り、そのときに感じたこと、考えたことなどと照らし合わせながら考えることが大切である。このような時間を通して、生徒は道徳的価値の理解とともに自己理解を深めることになる。

(3) 道徳的価値を自分なりに発展させていく事への思いや課題が培われること。その中で自己の未来に夢や希望がもてるようにするということ。「中学校段階においては、自己の中に形成された道徳的価値に裏付けされた人間としての生き方についての自覚を深めていくことができるようにする（中学校学習指導要領解説道徳編）」ということ。

ねらいとする道徳的価値について、自分自身は現在どのような状態にあるのかを明確にすることで、的確な現状分析が可能となる。的確な現状分析は、正しく自分自身を見つめ、自分なりに道徳的価値を発展させていく事への思いや課題を培うことにつながる。

【研究主題に関わる言葉の定義】

○「未来への夢や希望」

中学校学習指導要領解説道徳編では、生徒を取り巻く社会の変化に伴う課題として、「社会全体のモラルの低下、家庭や地域の教育力の低下、社会体験、自然体験の不足、社会の変化に伴う様々な課題」を挙げている。「未来への夢や希望」とは、生徒が生きていく様々な社会環境においても、人間としてよりよく自分らしく生きていこうとする思いや願いのこととした。

自己の人間としての生き方についての自覚を深める中で、自分らしさを肯定的に受け止め、前向きに生きようとする生徒を育てたい。

○「自己との関わり」

「自己との関わり」とは、自分の経験や考えなどを基に、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めていくこととした。

道徳的価値の自覚を深める学習過程においては、自分との関わりで道徳的価値を捉え、そのことに合せて自己理解を深めることができるように指導することが大切である。その道徳の時間のねらいとする価値について、自分の経験や自分が捉える道徳的価値と照らし合わせて、じっくりと考えさせたい。

○「他者との関わり」

「他者との関わり」とは、道徳の時間内における他の生徒との関わりとした。

他者理解を進める上で、大切にしたいのが他の生徒との心の交流や意見のやりとりである。多様な感じ方、考え方に触れ、それぞれの立場を肯定的に受け止め合う活動を大切にしたい。

2 調査研究

【調査目的】生徒の将来への夢や希望、他者との関わり方に対する意識を調査する。

【調査対象】都内中学校2校の生徒 第1学年271名、第2学年283名、第3学年252名

【調査時期】平成25年11月

【調査方法】質問紙法（記述式・選択式）

I 将来の夢や希望に関する質問（記述式）

○進路について

「中学生になってがんばってきたことは、何ですか。」（全学年）

文武両道 健康管理 学校生活 自分磨き 人間関係 新しいことへの挑戦 特になし

「卒業までにがんばりたいことは何ですか。」（第1～2学年）

ボランティア 今しかできないこと 夢をあきらめない

「卒業後、どんな学校に進みたいですか。」（第3学年）

国際交流がある 質の高い授業 一人一人を尊重 行事が盛ん 落ち着いた校風

「卒業後、どんな道に進みたいですか。」（全学年）

自分にあった職業 お金をかせぐことができる仕事 夢を見つける 決まっていない

○生き方について

「これからどのような生き方をしたいですか。」

自分にとって幸せだと思う生き方 社会の役に立てるように 人に迷惑をかけない

○夢や希望のとらえ方について

「友達に次のように言われたら、どんな言葉をかけてあげますか。」

1年生「勉強ができるようになりたいんだ。」

自分のペースで 勉強方法教えるよ 授業を真面目に 先生に聞いたら

2年生「部活と学習が忙しい中で、進路を決めなくては。君は、どうしている？」

両立をあきらめない 部活に専念 高校見学に行く 友達と家族、先生と相談

3年生「先生に志望校を変えた方がいいと言われてしまった。これからどうすればいいかな。」

あきらめず一生懸命にやる 一緒に頑張ろう 他の友達にも相談を 後悔しない道を

〈将来の夢や希望に対する考察〉

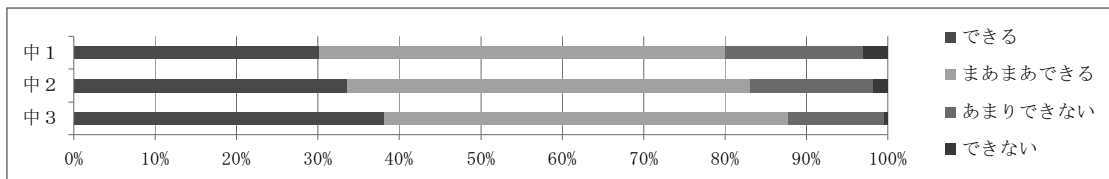
- ・「中学生になってがんばってきたこと」では、部活や勉強、学校行事、友達関係を中心としながらも、1年生では、「新しいことに挑戦」など、新生活に対する期待が感じられる。2年生になると、学校生活にも慣れ、「苦手教科の克服」「欠席をしない」など、中学校生活における課題が顕著である。3年生ともなると、職場体験やボランティア活動を通しての社会参画の意識や「体調管理」「健康」といった自己の生き方に関する記述も伺えた。
- ・「卒業までにがんばりたいこと」では、学年が上がるにつれ、漠然とした目標から、具体的な目標へ変わり、中学校生活における自己の方向性が明確になってきている。
- ・「どんな学校に進みたいか」では、進路がより明確になってきていることがうかがえる。また、「安心して過ごすことができる学校」の記述が目立つことから、生徒や学校の実態や悩

みや葛藤等、思春期の心の揺れ、人間関係を重視していることがわかる。

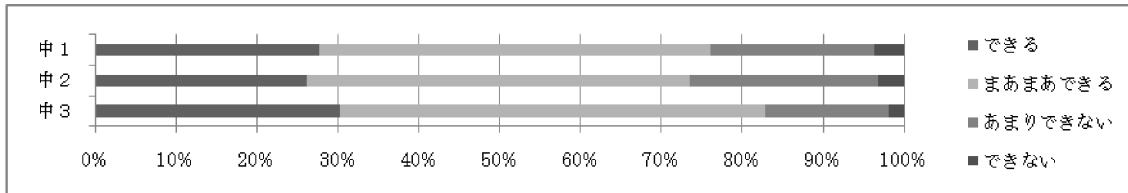
- ・「卒業後、どんな道に進みたいか」では、実現可能かどうかも含めて考える時期である。学年が上がるにつれ、職業の幅が広がる。人生に関わる職業の問題についての関心が高くなってきていることが分かる。また、自己の生き方について、夢や希望が描けていない生徒が多くいる。
- ・「これからどのような生き方をしたいか。」では、自己や他者との関わりについての記述に加え、集団や社会との関わりを意識した回答が目立ち、人間としての在り方・生き方に広がりが見られる。
- ・「夢や希望の捉え方について」は、1年生は、相手に共感し、寄り添う記述が多かった。2年生ともなると、それまでの学校生活や実践を踏まえて、より具体的なアドバイスができるようになる。3年生では、1・2年生に比べ、長文のメッセージが多く見られた。友達への言葉かけの中に、自己と照らし合わせながら、近い将来や人生を直視している記述が見られた。

Ⅱ 自己や他者との関わりに関する質問（選択式）

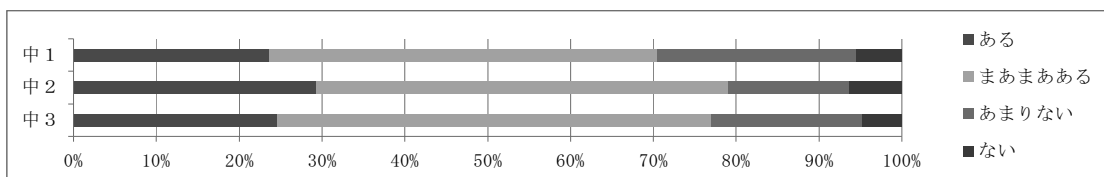
1. 自分の気持ちや考えを書くことができますか。



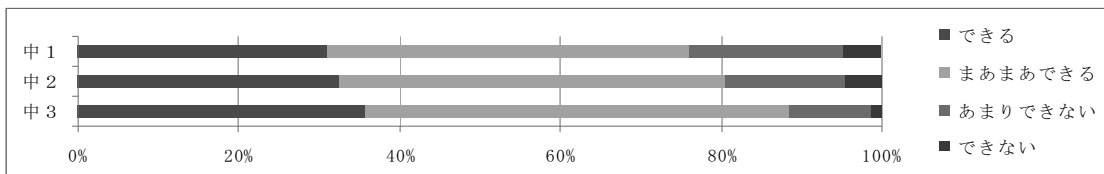
2. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることはできますか。



3. 友達の考えを聞いて、触発されたことはありますか。



4. 互いの気持ちや考えを話し合うことはできますか。



〈自己や他者との関わりに関する考察〉

- ・どの質問も「できる」「まあまあできる」が全体の70%以上となっており、生徒にとって友達という存在が重要であることが分かる。

- ・「できる」と「まあまあできる」を合わせてプラス傾向として考えた場合、質問1では、全学年とも、プラス傾向の数値が80%を上回っている。これは、自身の気持ちや考えを整理し、書き表すことができるようになってきているからだと考えられる。
- ・一方、質問2では、質問1に比べ、プラス傾向の数値が下回っている。これは、自分の気持ちや考えを相手に伝える際に、共感してもらえるか、否定されるのではないかな等の不安の表れと考えることができる。
- ・質問4では、1年生が、プラス傾向の数値が80%未満だったのに対し、3年生では90%近くまで伸びている。進路や近い将来に対する自分の考えを友達との話合いの中で、模索しようとしているのではないかと考えられる。

3 授業研究

自己の生き方についての考えを深めることや未来への夢や希望に関する基礎研究及び生徒への質問紙法で実施した調査研究を基に、中学校2回、小学校4回の授業研究を行った。また、研究主題に迫るために「ねらいとする道徳的価値に関する実態調査」、「発問構成の工夫」、「学習活動の工夫」の3つを研究の柱とした。

○ねらいとする道徳的価値に関する実態調査

道徳の時間において生徒の道徳的価値の自覚をより深いものとするためには、生徒が本時のねらいとする道徳的価値において現在どのような状況にあるのかを、授業者ができる限り詳細に把握しておくことが重要であると考え。様々な学習活動において、ある程度は生徒の実態を捉えることができる。しかし、生徒自身がねらいとする道徳的価値についてどんな感じ方・考え方をしており、自分自身の現状をどのように捉え、自己を認識しているかと言う詳細までは把握することができない。そこで、授業を構成する際に、ねらいとする道徳的価値に関する実態調査を行い、授業者が把握している実態と生徒自身の自己認識を明確にすることで、研究主題に迫る授業を考案・実践することができると考えた。

○発問構成の工夫

発問を構成する際、生徒の実態と資料の特質を踏まえた発問を行うために、上記の実態調査を活用する。生徒の発言を想定しながら発問することで、ねらいに対する葛藤を促すようにする。

○学習活動の工夫

自己理解は、自己や他者との関わりを通して、より確かなものになると考える。したがって、話合いの場や発表などといった互いの考えを共有する場を設定する。また、自分の考えを整理し伝えやすくするため、さらに、他者との関わりによって深められた自分自身の道徳的価値の自覚を振り返らせるために、特に中心発問においては書く活動を取り入れる。

4 実践事例

(1) 第1学年

- ① 主題名 きまりの意義 (内容項目：4－(1) 法やきまりの意義)
- ② 資料名 「人に迷惑をかけなければいいのか？」 (「自分を見つめる」あかつき)

③ 研究主題との関連

○ねらいとする価値について

中学生になると、社会の中で、人間としての生き方について自覚が深まってくるようになる。学校という集団におけるきまりについてその意義を理解し、きまりをしっかりと守って生活している生徒もいる一方で、きまりは自分たちを拘束するものとして反発する生徒も少なくない。また、自分のやりたいことのみを主張し、他人への配慮等を考えようとしめないこともある。

中学校の道徳の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の項目(1)は、「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。」である。秩序や規律は、個人を束縛するものではなく、集団や社会の秩序や規律があるからこそ、その範囲の中で個人の自由が保障されるということを理解させていきたい。このことは、人間としての生き方についての自覚を深めていく上で重要だと考える。よりよい社会を築くために、一人一人が法やきまりを遵守し、自分や共に生きていく人たちの権利と自由を守り、人間としてよりよく生きていく意欲を高めることが自分自身の将来への未来や希望につながると考える。

○生徒の実態

今回のねらいである「きまりの意義」に関するアンケート結果からは、「きまりは守らなければならないもの」と回答している生徒がクラスの93%、そのうち「きまりを破ってしまうことがある」と回答している生徒は100%である。このことから、道徳的価値の理解は十分にあるものの実践することに結び付いていかない、ということが分かる。また、「なぜきまりがあるのか」という問いに対しては、「社会がくずれる」、「みんなが安心」、「安全に落ち着いて過ごすため」、「他人に迷惑をかける」、「自分のため」、と答えている生徒が多い。さらに、「なぜきまりを破ってしまうのか」ということに対しては、「周りに流されてしまう」、「急いでいる」、「楽しい(気持ちの高揚)」、「これくらいなら大丈夫」、などということから、きまりの意義について理解をしているものの、きまりを守ろうとする意欲につながっていないこと、他の人がきまりを守っていないのに自分だけ守らなければならないことに対する葛藤、なぜきまりを守らなければならないのということに対する認識の甘さなどがみられる。道徳の時間を通して、さらに心の葛藤を促す発問をすることで道徳的価値の自覚を深め、きまりを守ることに、一人一人の実践の意欲を高めていきたい。

○資料について

通り抜けを禁止されている駐車場を通り、思わぬトラブルを招いてしまう「僕」が主人公である。「人に迷惑をかけなければいい」と思っていた「僕」が、自分の気付かないところで実は迷惑をかけていたことを知り、反省する姿を通してねらいに迫るものである。生徒へのアンケート結果によると、やってはいけないとわかっているもやってしまったという経験をしたことがある生徒が圧倒的に多い。このことから本資料は、「僕」に共感しやすく、より自分のこととして考えを深めていくことができるのではないかと考えた。

資料分析

場面	朝の登校時	短学活後	夜になって		お詫びに行って
状況	遅刻しそうだったので、通り抜け禁止の駐車場を通った。	急いで公園に行きたかったので、注意されたにもかかわらず、通り抜け禁止の駐車場を通った。その際、ビンをつきつけて割った。	ビンを踏んだ車がパンクし、連絡が入り、両親に叱られた。	おじさんにひどく叱られたが、父も先生も何度も頭を下げてください、何とか許された。	無言のまま肩に置かれた先生の手がやけに熱く感じられた。
「僕」の心	遅刻したくない。誰にも迷惑をかけていない。	注意されたけど、通った方が早い。ビンを置いた方が悪い。	大事になるならやらなきゃよかった。	父や先生に迷惑をかけてしまった。	きまりを守っておけばよかった。

④ 研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

- ・事前に生徒に本時のねらいとする道徳的価値についてアンケートをとり、一人一人の実態を把握する。発問内容や授業で意図的に指名する際に活用する。
- ・授業におけるワークシート等において、ねらいとする道徳的価値の自覚についての振り返りをさせ、事前にとったアンケートと見比べ、意識の変容を見取り、評価に生かす。

【発問構成の工夫】

- ・生徒の実態に応じ、生徒の発言を想定しながら、ねらいに対する葛藤を促すような発問構成にする。
- ・導入部分では、身近な話題を提示し、自分との関わりにおいて発言しやすいような発問をする。資料との関わりから自分自身の「道徳的価値の自覚」を深めるような発問をする。
- ・「きまりを守ることの大切さの自覚」をねらいとし、小集団での話し合いをする。他の生徒の意見より「自分との関わり」を見つけ、現在の自分自身の生き方についての振り返りをし、自分のよさや課題に気付くようにする。

【学習活動の工夫】

- ・他者との関わりによって、自分自身を振り返るきっかけをつくるために、中心発問について話し合う場を設ける。
- ・自分の考えを伝え、「道徳的価値の自覚」を深めるため2～3人程度の小集団で行う。
- ・話し合いの前に書く時間を設け、ねらいとする道徳的価値についてしっかりと考えさせ、話し合いが充実したものになるようにする。
- ・話し合いの後に書く時間を設け、他者との関わりによって自分自身の「道徳的価値の自覚」をどの位深めることができたか振り返らせる。また振り返りによって「人間としての生き方の自覚」につなげられるようにする。

⑤ 本時の展開

(1) ねらい きまりの意義を理解し守ることの大切さに対する自覚を深め、自他の権利を重んじようとする心情を育てる。

(2) 展開

	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 過去の経験からきまりに対する自分自身の認識について考える。</p> <p>○このような状況のとき、あなたならどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜の横断歩道で、赤信号の写真。 ・生徒が使用しているタイプの自転車の写真。 ・スクールバックと携帯電話の写真。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において起こりうる状況を設定し、きまりについて考えさせる。
展開	<p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>○「僕」はなぜ先生の注意に納得できなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけではない。 ・人に迷惑をかけているわけではない。 <p>○「僕」は叱られている時、どんなことを考えていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンを割らなければよかった。 ・駐車を通らなければよかった。 ・こんなに怒られるとは思っていなかった。 <p>◎ピンを割らなければ、車がパンクしなければ、駐車を通ってもよかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷惑にならないからいい。駐車を通っただけだから。 ・迷惑をかけなければいいという問題ではないから。 ・きまりを守らなかったことで、いろいろな人に迷惑をかけてしまう。 <hr/> <p>○きまりに関する過去の自分の経験を振り返りながら、感じたことや考えたことを書いてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の気持ちを考えさせることで生徒の本音を出させるようにする。 ・「僕」がとった行動を反省しているだけであることに注目させる。 ・話し合いをしていく中で、大事になったことが問題ではなくてきまりを守らなかったことが問題であることに気付かせる。 ・ワークシートに書かせてから話し合いを始める。 ・ワークシートに書かせる。過去の経験を振り返ることできまりを守ることの大切さについて自覚を深める。
終末	<p>3 教師の説話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を振り返ったことを深めるような言葉をかける。

(3) 評価

- ・きまりの意義を理解し守ることの大切さに対する自覚を深めることができたか。
- ・自他の権利を重んじようとする心情を育てることができたか。(発言・ワークシート)

⑥ 授業記録

導入	<p>T：このような時、自分だったらどうしますか。</p> <p>※夜の赤信号の写真を提示</p> <p>S：ばれなければいい。</p> <p>T：そうですね。誰も見ていません。</p>
----	---

	<p>これはどうですか。登校前です。遅刻しそうです。</p> <p>※自転車の写真を提示。本校は自転車通学禁止である。</p> <p>S：バスに乗る。</p> <p>T：バスは、時間がかからない？自転車に乗りたくありませんか。</p> <p>※カバンの写真と携帯の写真を提示</p> <p>S：お母さんに持っていきなさいって言われたんですよ。</p>
展 開	<p>T：「僕」はなぜ先生の注意に納得できなかったのでしょうか？</p> <p>S：見られていなかったから、それ（駐車場を通ること）ぐらいはいいと考えたから。</p> <p>T：だから、怒られるのは納得いかない、ということですか。</p> <p>S：（うなづく）</p> <p>T：ばれていない。見られてはいないという気持ちでしょうか。</p> <p>S：迷惑をかけてない。</p> <p>T：駐車場を通ことは迷惑ではないと思っているのですか。</p> <p>S：ばれなければ何をやってもいい。</p> <p>T：他にありませんか。付け加えとか。放課後また（駐車場を）通ったのですよね。</p> <p>夜になって、分かったことは何でしょうか。</p> <p>S：ビンが割れてパンクしたこと。</p> <p>T：それでどうしたのでしょうか。</p> <p>S：謝りに行った。</p> <p>T：そのときの僕は、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>S：こんなこと、やらなければよかった。</p> <p>T：こんなことは？具体的に言うと何ですか。</p> <p>S：ルールを破った。立ち入り禁止。</p> <p>S：通り抜け禁止。</p> <p>T：逆に通り抜け禁止がなかったら、どうしますか。</p> <p>S：通っちゃう。</p> <p>T：ビンを割らなかったら、車がパンクしなかったら、駐車場通ってもよかったのでしょうか</p> <p>S：ビンを置いた人も悪い。</p> <p>T：それもそうですよね。なるほどと思います。</p> <p>今からワークシートを配ります。一番の枠に自分の意見を書きましょう。</p> <p>（記入）</p> <p>T：周りの人はどんな意見をもっているのか、聞いてみましょう。一緒、気になるということ、書き足してください。疑問に思ったことは、なぜかと聞いてみましょう。</p> <p><u>話し合い活動</u> ペアワーク：隣の人→前後の人</p> <p><u>全体に向けて発表</u> 数人を指名する。</p> <p>T：周りの意見も自分も言ってみましょう。</p> <p>S：ビンが置いてあるのもおかしい。通り抜け禁止なのに。</p> <p>T：そもそも（ビン）を置いたこともよくないのでしょうか。</p> <p>S：人の敷地に入るのは住居侵入。通ったと言わなければ分からない。通るのも悪いけど。</p> <p>T：ばれなければいいということですか。</p> <p>S：駐車場には危険が多い。</p> <p>T：危険が多いとは、例えばどういうことですか。</p>

	<p>S：車をこじ開ける。迷惑をかける。</p> <p>S：おじさんが乗るときに（ビンが割れているのに）気付く。</p> <p>S：（おじさんはビンを割って）大事にしたかった。</p> <p>S：世の中を守らなければいけない。きまりだから、守らなければいけない。</p> <p>T：駐車場を通ると言うこと（事態）は迷惑をかけないということですか。</p> <p>S：（大事になるような）迷惑をかけなければ…というのはそうだけど、（結果的に）大事になるから。</p> <p>T：きまりの意義とは何なのでしょう。</p>
	<p>T：資料から離れてみましょう。人に迷惑をかける、きまりってなんだろう。昔のことを振り返って、きまりについて踏まえながら書いてみましょう。</p>
	<p>S：（ワークシートに記入）</p>
終末	<p>T：きまりの意義について、今日考えたことや感じたことを大事にしていってください。</p>

7 成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・生徒がどのように道徳的価値を理解しているのか、また道徳的実践力につながっているのかが明らかになり、発問を考えることができた。
- ・事前に調査をとっていたことで、事後に振り返りを行った際に、生徒の意識の変容を見取ることができ、本時の評価に生かすことができた。例えば、事前の調査において、「きまりは守らなくてもよい」と回答していた生徒が、事後の調査においては、「きまりを破らなければよかった。」「迷惑をかけなければいいというわけではない。」「きまりを守るとするのはとても大事だと思った。」と回答している。
- ・「きまりは守るべきものである。」と回答していた生徒の中にも「ルールを破ることで、自分は迷惑をかけていないと思っても本当は人に迷惑をかけていると感じた。」「守らなければいけないと分かっているけどきまりを破ってしまい、この資料の人のようにばれなければいいと思ってしまう。そしてばれてしまったときに後悔をしてまた守らなければと思うけれど、破ってしまうことの繰り返しだった。だからきまりは、自分のためにも周りの人にも迷惑をかけないために必要で守らないといけないと改めて思った。」などと、きまりの意義に対する道徳的価値を深められたと捉えられる回答がある。

【発問構成の工夫】

- ・実態調査に基づき生徒の発言を想定し、ねらいに対する葛藤を促すようなものを実践した。
- ・自分自身に対する振り返りの発問に対するワークシートへの記述に、「ばれなければと思ったが、今思えば、ばれる可能性も人に迷惑をかける可能性も十分にあったのだと思う。」「過去の自分だったら、もしかしたらきまりを破っていたかもしれない。迷惑をかけるようなことはしていないと思っていた。」「赤信号を渡ってしまうことがある。もしかしたら自分が事故にあうかもしれない。事故にあったら迷惑がかかるのは親や加害者になってしまった人であ

る。」といったものがあり、問題に対して自分なりに考えていた様子が見られた。

【学習活動の工夫】

- ・ 2～3人の小集団での話し合い活動を取り入れたことで、自分の考えをなかなか言い出すことができない生徒にとっても話し合いやすい状況をつくれた。どのグループも互いの考えを伝え合っている様子が見られた。
- ・ 話し合い活動の前に書く活動を取り入れたことは、自分の考えを伝えやすくなった一つの要因であることが生徒の様子から伺えた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・ 発問構成や評価に活用していくために、有効な実態調査を今後も検討していく。

【発問構成の工夫】

- ・ ねらいに即して考えると、発問そのものが資料を読んでも自分の判断を問われているテーマ発問のようなものであったということもあり、資料の登場人物の心情に共感することは難しかった。
- ・ 登場人物の心情に共感させ、生徒の本音を引き出すためには、どの場面を発問に当てるのか、さらに分析する必要があった。
- ・ 様々な方向へ生徒の発言が向かわないよう補助発問等を効果的に取り入れる必要があった。

【学習活動の工夫】

- ・ 「きまり」の内容の捉え方に差があったことから、より生徒の実態を把握し、学習展開をさらに工夫する必要があった。
- ・ 「きまり」に対して「迷惑をかけなければいいもの」「迷惑をかける、かけないという問題ではないもの」などと、「きまり」に対する捉え方を押えてから、「きまり」の必要性を考える展開もあった。
- ・ 取り扱う資料と生徒の実態を照らし合わせて、より効果的な学習展開を検討する。

(2) 第2学年

- ① 主題名 働くことの意味 (内容項目：4-(5) 勤労の尊さ・社会貢献)
- ② 資料名 「小さな^{こうば}工場の大きな仕事」 (中学校道徳『あすを生きる2』東京都版 日本文教出版)
- ③ 研究主題との関連

○ねらいとする価値について

自己の将来に夢や希望を抱き、その実現をめざし、職業生活に必要な基礎的な知識や技術・技能の習得への理解や関心、望ましい勤労観、職業観の育成はすべての生徒に必要なものである。また、技術革新の進展や経済・産業の変化や構造転換などが急速に進む中で、学校教育を終えた後も、若年者に対して、新たな知識や技術・技能を身に付け、生涯にわたって自己の職業生活をたくましく切り拓いていこうとする意欲や態度、目的意識などを培うことがこれまで以上に大切になってきている。

中学校学習指導要領解説「道徳編」の内容4には、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の項目(5)には「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の

発展に努める。」とある。中学生の時期は、進路や職業についての関心が高まる時期であるが、自己中心的にその価値や意義を捉えてしまう傾向がある。このような時期に、勤労の尊さやその意義について十分理解させることが大切である。また、働くことの意味を理解させるためには、職業についての正しい考え方を育み、公共の福祉に努めようとする態度を育成することが重要である。職場体験を終えたばかりの生徒に対して、個人の立場を越えた社会全体の利益を大切にすると、自己の資質・能力を有効活用し、社会貢献しようとする心情を育てたい。

○生徒の実態

本時のねらいである「働くことの意味」に関する意識調査等では、「人は何のために働くのか(働く目的)」という問いに対して、9つの選択項目の中から最も大切だと思うものとして多くの生徒が選んだものは、「収入を得て生活を送るため」であった。また、その次に大切だと思うものとして生徒が選んだものは、「世の中の人々の役に立つため」や「社会的な地位や名声を得るため」であった。このような回答から、働くことについて、現実的に捉え始めていることに加え、社会の一員としての生き方を意識し始めていることがわかる。

道徳の時間を通して、この度の職場体験を振り返りながら、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする心情を更に伸ばし育てていきたい。

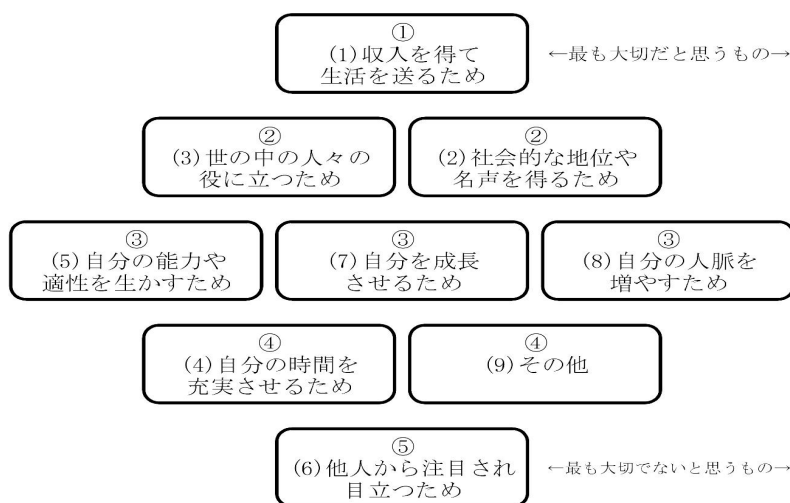
○意識調査等の分析

(1) 生徒の「働く目的」についての意識 (生徒が作成した「ダイヤモンドランキング」から)

(1) 収入を得て生活を送るため	(2) 社会的な地位や名声を得るため	(3) 世の中の人々の役に立つため
(4) 自分の時間(プライベート)を充実させるため	(5) 自分の能力や適性を生かすため	(6) 他人から注目され、目立つため
(7) 自分を成長させるため	(8) 自己的人脈を増やすため	(9) その他

対象：都内中学校 第2学年 31名

ダイヤモンドランキング【上位】



ダイヤモンドランキング 集計結果

①									
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
18		7	1	2		2		1	
②									
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
8	10	11	8	9	1	8	5	2	
③									
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
5	10	12	7	16	3	17	15	8	
④									
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
	11	1	14	2	8	2	10	14	
⑤									
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
		2			19	1	1	8	

◇何に一番感動しましたか。「職場体験をしてよかった」と思うことはどんなことですか。

- ・正しい敬語を学べた。普段は目につかないところでの作業を知り勉強になった。

◇自分の良い面を見つけ、自信がついたことは何ですか。

- ・利用者の方に「聞きやすい声だね!」と言われて嬉しかった。(老人ホーム)

◇「社会(世の中)」や「働く」ということについて、自分の考えが深まったと思うことや変化したと思うことは何ですか。

- ・目の前の仕事をこなすだけでなく、個々が周りとは協力したり、助け合ったりするところに、世の中が築かれていると思った。思っていたより働くということが大変だった。

○資料について

本資料は、小さな町工場を営む父親の姿を見ながら生活している中学生の主人公が、職場体験や家族との触れ合いを通して、勤労や職業について理解を深めていく内容である。大きなソフト会社と小さな町工場という外見的な違いによって、自宅の仕事に不満を感じていた主人公が、小さな工場の仕事の大きな意味に気付くという内容である。主人公の心情の変化を通じて、職業についての理解を深め、勤労の意味を考えさせることに適した資料である。

資料分析

場面	小さな工場の紹介	職場体験前の家族との会話	職場体験当日の出来事	大きな仕事をする父親
状況	<ul style="list-style-type: none"> ・金属部品を最後は手作業で仕上げていく仕事。 ・油のにおいに囲まれた作業場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の場所はゲームソフトの会社に決定。 ・母親が「よかったですね」と答える。 ・兄から「社会は甘くない」と知らされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が弁当を用意するが置いていく。 ・弁当は兄が食べることになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上がった製品がロケットの部品であることを知る。 ・父親の熟練された技がコンピュータよりも優れていることを知る。
「僕」の気持ちや心の動き ※僕:主人公	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ制御なのだから、手を汚さずに製品を仕上げられないのか。 ・朝から晩まで汚れて働くのではなく、綺麗な職場で多くの給料をもらいたい…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が喜んでくれたことを受けて、将来への夢が膨らむ。 ・職場体験先の会社概要をインターネットで調べ、大企業であることを知り感動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな会社に機械油のにおいが付いていそうな弁当は持っていきたくない。 ・母親に対して「申し訳ない」という気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さく汚い工場から、最新技術に必要な部品が作られていることに驚く。 ・毎日毎日、手を汚しながら、世の中の役に立とうと頑張っている父親の姿を誇りに感じる。

④ 研究主題に迫るための手立て

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査】

- ・職場体験終了後、生徒に本時のねらいとする道徳的価値についてのアンケートを行い、生徒一人一人の実態を把握し、発問内容の検討や授業で意図的に指名する際に活用した。
- ・授業終了後、事前に行った実態調査と同様のアンケートを行い、生徒一人一人の意識の変容を見取り、それを評価に活かした。

【発問構成の工夫】

- ・導入では、職場体験学習を話題にしなが、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるよう

な発問をする。

- ・他の生徒の意見より「自分との関わり」を見付け、現在の自分自身の生き方についての自覚を深められるような発問をする。

【学習活動の工夫】

- ・プレゼンテーションソフトを活用し、視覚的効果によって生徒の興味・関心を高める。
- ・自分自身を振り返られるよう、生活班での話合いの場(他者との関わり)を設ける。
- ・班ごとに意見をまとめ、発表させることで、様々な考えに触れられるようにする。
- ・他者との関わりによって自分自身の「道徳的価値の自覚」をいかに深めることができたかを振り返らせ、「人間としての生き方の自覚」につなげる。

⑤ 本時の展開

(1)ねらい 労働の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする心情を育てる。

(2)展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1. 終えたばかりの職場体験について、アンケート調査をもとに振り返る。</p> <p>○アンケート結果は次のようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とちょっと違う意見だな。 ○将来、就きたい職業は何ですか。 それは、何故ですか。 ・警察官…市民を守りたいから 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使い、分かりやすくアンケート調査の結果を提示し、結果について個々に考えさせる。
展開	<p>2. 資料「小さな工場の大きな仕事」を読み、それぞれが感じたことを発表する。</p> <p>○主人公は父親の仕事について、どう思っていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手が汚れ、油のおいがこびりつくような仕事は嫌いだ。 ・カッコいい仕事とは思えない。 <p>(補助発問) その気持ちが表れていた出来事は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が作ってくれた弁当を家に置いていってしまった。 <p>○父親の「黒い手が、誇らしく見えた」のは何故か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんの仕事のスケールが大きかったから。 ・機械やコンピュータよりも優れている技術を持っていることを知ったから。 ・熟練した技術を得るまでの努力を知ったから。 <p>◎「働く」とはどんなことだと思うか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つこと。・自分自身の力を生かすこと。 <p>(補助発問) 様々な職種で働く人たちの存在はどうだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人たちがいるから社会が成り立っている。 ・いなくなったら生活できなくなる。 ・便利な世の中が送れるよう努力してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者が読んでじっくり聞かせる。 ・主人公の気持ちを考えさせ、自分自身の本音と向き合わせる。 ・主人公の気持ちに対し、より深く考えさせる。 ・班の中でそれぞれが意見を出し合い、ワークシートにまとめて発表させる。 ・班の中で話し合い、それぞれが意見を出し合い、それをワークシートにまとめて発表させる。 ・大きな仕事だけでなく、どんな仕事でも社会に貢献できること、社会に貢献していることに気付かせる。

終末	3. 教師の話を書く。	・生徒一人一人が自己の職場体験について振り返ったことを更に深められるような話をする。
----	-------------	--

(3) 評価

- ・勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする自覚を深めることができたか。

⑥ 授業記録

導入	<p>T : 「なぜ働くのか」について、一番は多かった回答は何だと思えますか。</p> <p>S : お金だと思います。</p> <p>T : 「収入を得て生活を送るため」そのことは、先生もよくわかります。ですが、「人々の役に立つ」この回答が2位だったことが先生は嬉しいです。そして、「人脈も多くなる」この価値等も嬉しかったです。その他の回答としては、「力をつける」「ほめられる」というようなものがありました。</p> <p>T : 将来、つきたい職業は何ですか。</p> <p>S : 大統領を目指しています。</p> <p>S : 親がラーメン屋だからラーメン屋になりたいです。</p> <p>T : 職場体験を行いました、「働く」ということについてやっつけようと思えます。</p>
展開	<p>T : 主人公は父親の仕事はどう思っていましたか。</p> <p>S : あまりよく思っていない。</p> <p>T : それはなぜですか。</p> <p>S : 工場が小さくて格好悪いからです。</p> <p>T : 主人公がこの気持ちをどのような行動に表わしましたか。</p> <p>S : お母さんが作ってくれたお弁当を職場体験に持っていきませんでした。</p> <p>T : なぜ持っていかなかったのですか。」</p> <p>S : 大きい会社に持っていくのは、恥ずかしいと思ったからです。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">T : 主人公が最後「父親の黒い手が誇らしく見えた。」と言っていますが、それはなぜでしょうか。</p> <p>※ワークシートを配布し、班ごとに話し合いを進める。</p> <p>T : 自分の意見を発表してください。</p> <p>S : 小さな工場でロケットを作っているのを見て、それを長い間作り続けている父親をすごいと思っていました。</p> <p>S : 小さな工場で格好悪いと思っていたけれど、宇宙や人工衛星の部品を作っていて、訳に立っていることがすごいと思っていました。</p> <p>S : 地味で格好悪いと思っていたことが、20年以上も同じことを続け、ようやく思うように作れるようになったことがすごいと思っていました。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">T : 働くとはどのようなことでしょうか。職場体験を通じて思ったことがありますか。</p> <p>S : お金を稼ぐこと。 S : 人の役に立つということ。</p> <p>S : 自分が行った職場の人たちは、その仕事に生き甲斐を感じていました。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">T : 様々な職種で働く人たちの存在についてどのように感じますか。</p> <p>S : 大切な人たちです。</p> <p>S : 子どもや親の心を成長させる人たちもいます。</p>
終末	<p>T : 働くという字はどのようなつくりになっていますか。</p> <p>S : 人が動く。</p>

S：人のために働くということだと思います。

T：どのような仕事もすべて生活に必要です。様々な職種で働く存在は、私たちにとって大きいものです。今日、皆さんは、働くことの意味をよく考えられたと思います。

⑦ 成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・実態を把握するために、ダイヤモンドランキングを使用することで、生徒一人一人の道徳的価値の理解が明確になった。また、その集計を提示することで、それぞれが持つ価値の違いやクラスの傾向に気付かせることができた。
- ・事前の実態調査を、ねらいとする道徳的価値に迫る本時の評価に生かすことができた。例えば「働く」ということについて、「人の役に立つための方法の一つ」、「責任感が重要」、「世の中の流れの土台となるもの」、「どんな小さな仕事でも、絶対にどこかで役に立っているから、手を抜かないでやる」などがあり、ねらいとする道徳的価値を深められたと考える。

【発問構成の工夫】

- ・実態調査を基に、「働く」ということについて考えさせるような発問になるよう工夫した。
- ・生徒の意見に、「自分の生活が成り立つのは、学校で働いている先生たちであったり、毎日見るテレビで言えば、テレビ局で働く人たちであったり、移動に使うバスで言えば、バス会社で働く人たちがいるからだと思う。」「身近な存在ではないけれど、科学者のように世間の人たちが普段目にしないところで働き、薬や環境などの研究を続け、人々の生活を良くしている」と努力している人もいる。それを考えると、「働く人々の存在は大切だと思う」などであったように、ねらいとする道徳的価値を深められたと考えられる。

【学習活動の工夫】

- ・導入で、プレゼンテーションソフトを活用し、ダイヤモンドランキングの集計結果を提示することによって、生徒の興味・関心を高めることができた。また、その中で自己と他者の道徳的価値に対する考えの違いに気づき、自分への振り返りに活かすことができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・ねらいとする価値に迫れるように、実態調査の内容についてさらに検討を重ねていく。

【発問構成の工夫】

- ・生活班での話合いの際に、発問の意図が十分に理解できていない班もあったので、生徒の実態に応じて、補助発問や資料の振り返り等を取り入れていく。

【学習活動の工夫】

- ・他者との関わりという点で、話し合い活動が十分ではなかった。職場体験という貴重な経験をした生徒が、「働く」ということについて積極的に語りたくなるような発問や学習活動が必要であった。
- ・「自分で考える」→「話し合う」→「意見の違いを知る」という話合いの流れの中で、「自分で考える」という部分が不十分だった。自分の考えをまとめる時間や場面を設定する必要があった。

VI 研究の成果と課題

成果

(1) 基礎研究

- ・ 道徳的価値を自覚させる学習過程の分析、関わりについての研究を学習指導要領・参考文献・先行研究をもとに考察し、研究員間で共有化したことで、生徒の人間としての生き方についての自覚を深め、未来への夢や希望に向って自分らしく生きようとする心を育てるための授業を工夫し、実践することにつながった。
- ・ 教師の指導観を明確にした授業構成と生徒の実態を有効に生かす授業展開を開発することができた。

(2) 調査研究

- ・ 東京都教育ビジョン（第三次）に記された東京都教育ビジョン（第三次）にある「将来の夢や希望がもてない子供が多くいるという実態」を具体的数値として把握することができた。成長とともに様々な自己像を描いている反面、自己を正しく理解できていない生徒の実態も明らかとなった。自己や他者を肯定的に受け止めるようになることで、将来の夢や希望をもつことにつながる可能性が見えてきた。

(3) 授業研究

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・ 道徳的価値に対する意識を事前に調査したことで、生徒の考えや気持ちを客観的に把握することができ、生徒の道徳的価値の自覚を深める発問構成につなげることができた。

【発問構成の工夫】

- ・ 道徳的価値の自覚を深めるために、教師がそれぞれの発問の意図を明確にしながら行ったことで、生徒の道徳的価値を深めることができた。
- ・ 小学校と中学校と連携を図り、展開後段（自分自身の振り返り）に当たる発問を工夫することで、より道徳的価値の自覚を深めることができるのではないかと考えた。実践事例（1）（2）では、過去の自分の体験から自分を客観的に振り返り、今後につなげている発言が複数見られたことから、一定の成果があった。

【学習活動の工夫】

- ・ 話し合い活動で互いの意見を出し合うことを通して、自分の考えを確固たるものにしたり、自分の考えを新たにしたりする結果に結び付いていることが、生徒の様子からうかがえた。特に、自分と違う意見と出会ったときに真剣に意見を交わす様子が見られたことは、話し合い活動を取り入れた成果の一つである。
- ・ 書く活動について、事例（1）では、自分が書いた意見の隣や枠外に、他の意見のメモをとっている生徒も見られた。自分の考えをもちながらも他の生徒の意見を聞くことで、生徒は様々なことを感じ考える。書く活動は、考えを整理し、まとめる効果がある。事例（1）では、発言の際には一言で終わっていた生徒も、ワークシートにはしっかりと自分の考えを書いていた。
- ・ 道徳の時間以外の様々な学習活動における生徒の発言を道徳の時間に反映させたことで、道徳の時間に対する生徒の関心を高めることができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

- ・生徒の実態と教師の意図する発問に差があると、生徒の道徳的価値の自覚を深めることができない。日頃より、生徒の実態を把握するとともにアンケート等の調査を有効活用し、道徳の時間に生かすことが今後も大切である。

【発問構成の工夫】

- ・実践事例（１）において、「提出物を出さなかった。」「学校に不要物を持って行ってしまった。」という事実のみの記述があったことから、展開後段の発問は、道徳的価値やねらい、また生徒の実態に応じて十分に検討する必要がある。

【学習活動の工夫】

- ・話し合い活動を充実させるためには、話し合いの人数、話し合いの進め方、まとめ方、意見の交流の仕方など、様々な方法を工夫することが考えられる。平成24年度の東京都教育研究員「中学校・道徳」においては、話し合いの工夫として、司会カードの作成、話し合いのルール作り、話し合い形態の工夫等に取り組んでいる。これらの研究を参考に、自己と他者との関わりを豊かにする指導としての話し合い活動について、今後も研究を進めていく。
- ・道徳の時間だけでなく、日頃の取組から話し合いの仕方を身につけさせておくことにより、道徳の時間の話し合い活動をスムーズに行うことができる。したがって、各教科や特別活動の時間など、学校教育の様々な場面で取り入れていく工夫が今後の検討課題の一つとして挙げられる。
- ・書く活動は時間がかかるので、全ての発問に対して書かせるのではなく、話し合い活動の前後に取り入れることが望ましいと考える。どの発問に対して書かせるのか、時間配分はどのようにするのか等、計画的に行う必要がある。

Ⅶ 今後に向けて

生徒は、道徳の時間において、様々な道徳的価値に触れて心が成長していき、そのことがすなわち人間としての生き方の自覚を深めることになる。人間として自分がどのように生きていくべきなのか、ということが生徒の中に確固たるものとしてあれば、自分らしく生きるという生徒の未来や希望につながっていく。このことを目指し、さらに道徳の時間を充実させる。

今回の研究において、ねらいとする道徳的価値に対する意識調査、発問の工夫、学習活動の工夫について、一定の成果を見ることができた。しかし、その方法については、今後も検討していく必要があると考える。したがって、次の3点が今後の課題である。

1 ねらいとする道徳的価値に対する実態調査の効果的な活用

- ・実態調査をさらに有効に活用する方法を模索していく必要がある。

2 生徒の道徳的価値の自覚を深めるための発問の工夫

- ・生徒の実態に応じた発問構成（補助発問を含む）や展開後段の有効活用について検討していく必要がある。

3 道徳的価値の自覚を深め、自分への振り返りにつながる話し合い活動の工夫

- ・効果的な話し合い活動の仕方を検討し、様々な学習活動でも取り入れていく必要がある。

平成25年度 教育研究員名簿

中学校・道徳

学校名	職名	氏名
江東区立大島西中学校	主任教諭	◎福原正和
西東京市立田無第二中学校	主任教諭	佐々木光

◎世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 土屋 秀人

東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 二ノ宮 正信

平成25年度
教育研究員研究報告書

中学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社